

シンポジウム 現代科学技術と人権

科学技術は私達生活にどのように関わってくるのか

ゲノム編集技術の進展に伴って基礎研究、応用技術が急速に進み、食品、医療、創薬、兵器など様々な形で私達の生活に入り込もうとしている。有用性や利便性や経済効果が強調される反面、安全性、特に次世代への影響や他生物や生物界への影響など取り返しのつかない危険性を孕んでいる。さらに人間の尊厳や格差や差別の問題を生む恐れがあるが、社会システム・制度や我々自身の心構えがまだできていないのが現実である。

科学者、技術者は、中立とはいえ、何のために研究するのか、何を作るために開発するかは、それを主体的に行っている科学技術者本人の意志である。取り返しのつかない危険性を真剣に考えず、提起もしないでさあ使ってくださいでは、人権を考えずに特権に胡坐をかいているようなものである。

かつて遺伝子組み換え技術において1975年のアシロマ会議では科学者自らが研究の自由を束縛してまでも自らの社会責任を問うたことで遺伝子組み換えの手間暇とお金のかかる厳しいガイドラインを制定した。

企業、政府は、金儲け、経済戦略の上で世界的に研究者による先陣争い、技術競争が激しく、科学者に国家戦略や営利目的による様々な誘惑と圧力をかけており、ガイドラインはどこまで期待できるのだろうか。このような状況で、ゲノム編集技術とは私達生活にどのように関わってくるのか。私たちも有用性や利便性を安易に受け入れていないか。安全性、尊厳、格差・差別、生物多様性を我々は自分の問題としてどれほど深刻に考えているのか。私たち自身、現代技術と人権さらには生物多様性を踏まえた共生社会をどのように考え、築くことができるのかを考えていきたい。

記

日時：2019年8月31日（土） 13時30分～18時 開場13時

場所：江戸東京博物館 東京都墨田区横網1-4-1 小ホール

アクセス JR 総武線 両国駅西口下車 徒歩3分

<https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/information/access/>

講演：池内了さん 名古屋大学名誉教授、世界平和アピール七人委員会委員

13:30～14:20 「ゲノム編集技術の生物兵器製作の動きについて」

四ノ宮 成祥さん 防衛医科大学校 医学教育部医学科教授

14:20～15:10 「先進生命科学技術がもたらすデュアルユース問題」

休憩： 15:10～15:25

アーサー・ビナードさん（ミシガン州生まれの詩人）

15:25分～16:05

天笠啓祐さん 科学ジャーナリスト

16:05～16:45 「????????」

パネルディスカッション

16:45～18:00

司会：島菌進さん、上智大学教授・東京大学名誉教授

主催：ゲノム問題検討会議

<https://genome714com.wordpress.com/>

問い合わせ：神野玲子 E-mail：jreikochan@yahoo.co.jp

携帯番号：090 - 2669 - 0413

資料代：1000円

以上